

Contents

「コミュニティ・アクション'06(Community Action for AIDS '06)について」.....	1
東京国際レズビアン&ゲイ映画祭	2
東京レズビアン&ゲイパレード2006 関連イベント	3
ネストより	4
HIV陽性者のライフ・マネジメント	6
ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会	7
板橋区医師会主催 ピアエデュケーター養成講座	8
活動報告	9
迫る!第20回日本エイズ学会学術集会	12

「コミュニティ・アクション'06(Community Action for AIDS '06)について」

コミュニティ・アクション事務局長/ジャンププラス代表 長谷川 博史

◆動き出そう。つながろう。

HIV/エイズの啓発活動というとなんだか堅苦しく、時には深刻だというイメージがあるようです。しかし、そんなに大げさに考えなくても、誰にだって出来ることはあるはず。数人の友人で集まって、そこでHIVについて15分だけ話を聞いてもらうとか、さりげなくコンドームとメッセージをお土産に配るとか、そんなことだって良いのです。小さなアクション(動き)をいろんなレベルでつないでいって大きなムーブメント(運動)になっていくはず。コミュニティ・アクション'06はそんな基本コンセプトのキャンペーンです。期間は11月16日から12月25日まで。対象エリアは日本全国。

◆誰もができる Living Together

すべてはふれいす東京が発行したHIV陽性者の手記集から始まりました。

新宿のゲイ・コミュニティではaktaを中心に活動しているレインボウ・リングが毎月第一日曜日の夕方、音楽ライブと手記リーディングを組み合わせたLiving Together Lounge(リビング・トゥゲザー・ラウンジ)という3時間だけの小さなパーティを2年前から定期的に開催しています。さらにAIDS & Society 研究会議が港区で居酒屋版Living Togetherを開催、さらにカラオケ大会と手記リーディングを組み合わせた「のど自慢LT(Living Together)」など、広がりが生まれています。

今年はふれいす東京代表の池上千寿子さんが日本エイズ学会の学会長をつとめることとなり、国際会議と同様に「Living Together」というテーマが掲げられました。これは地域社会をはじめとするさまざまなコミュニティで動き出す絶好のチャンスです。そんなわけでコミュニティ・アクション'06のテーマも当然「Living Together」です。内

容も行政から一個人までさまざまな立場の人たちが、ホームパーティから武道館まで、さまざまな規模で参加できるものとなりました。

◆参加は簡単。方法もさまざま。

コミュニティ・アクションへの参加は誰でも簡単にできます。まずはコミュニティ・アクション'06のホームページにアクセスするか、公式ガイドブック(11月初旬発行予定)を手に入れてみて下さい。そこにLiving Togetherのテーマに賛同したイベントが紹介されています。そのスタイルもパーティ、アート・イベント、セミナー、シンポジウムと硬軟とり混ぜて多種多様。そこに足を運んでみるのが最も簡単な参加方法。

さらに、一步ふみだして、参加イベントを主催する事もできます。参加イベントの条件はLiving Togetherの趣旨に反することなく、情報発信や募金などいくつかの条件の中から出来ることを二つみたせばOK。詳しくはお問い合わせ下さい。

◆いつでもどこからでも参加できるLiving Together宣言

「私たちはもうすでにHIVとともに生きている」というのが現実です。このことを確認して、HIV陽性者が生活する同じ社会で、自分も同じように生きていくという意志を表明するための「Living Together宣言」をweb上で行います。

これはあくまでも参加者の自由意志で、自分のためにするものです。その表れ方はその人それぞれで構いません。HIV陽性者への理解を自分から進めたいと思う人もいれば、自分がより安全でもっと楽しいセックスを心がけるとい人もいます。さらには世界のエイズ問題に取り組むという大きな決意の人もいるかもしれません。いずれにしても最初の一步はLiving Togetherなのです。

たくさんの方が個人としてLiving Together宣言に参加することで、多様な人びとが多様な生き方をする中でHIV／エイズとすでに関わっているという大きなメッセージを作っていきます。

コミュニティ・アクション'06はいま、ひとりひとりのアクションが大きくなりの種になることを期待して、小さな一歩を踏み出そうとしています。みなさんもこの最初の

歩をいっしょに踏み出してみませんか？

コミュニティ・アクション'06
URL: <http://www.c-action.org/>

問い合わせ先：
エイズ予防財団内コミュニティ・アクション'06事務局
TEL：03 (3592)1181

東京国際レズビアン&ゲイ映画祭

7月8日から17日にかけて東京の青山で第15回東京国際レズビアン&ゲイ映画祭が行われ、(財)エイズ予防財団主催、ぶれいす東京企画・運営の「研究成果発表会」の枠組みにて、様々な発信をしました。ぶれいす東京は、PERSONZのボーカルJILLさんのインタビューを上映しました。Community Action for AIDS '06のブースも出展され、上映作品の間にはLiving Togetherのスポット映像を流しました。

セクシュアル・マイノリティにとってのお祭でもあり、さまざまな人たちがレズビアンやゲイ等の豊かなカルチャーに触れることのできるアートイベントとして、第15回を迎えた東京国際レズビアン&ゲイ映画祭が開催され、今年はHIVをテーマにしたトークイベントや、ビデオ上映もありました。猛暑や雷雨といった天候不順の中、多くの方が訪れました。

「Community Action for AIDS '06のブースにて～」

あにたも

映画祭のブースでは、「OUR DAYS」のパネル展示、資料の無料配布、Living Together LETTERS、Living Together “Our Stories” の紹介を行いました。

「OUR DAYS」の展示には、たくさんの方が足をとめ、見てくださり、中には質問して下さる方もおり、成果があったと感じました。

ブースに訪れた方も様々で、全くHIV/AIDSを知らなかった方にとっては、知る機会になり、良かったと思います。またすでに知っている方でも、新たな発見になった方もおり、充実したと思います。映画祭ということで、女性もHIV/AIDSを知る機会が出来て、喜んでくださったことはなによりでした。

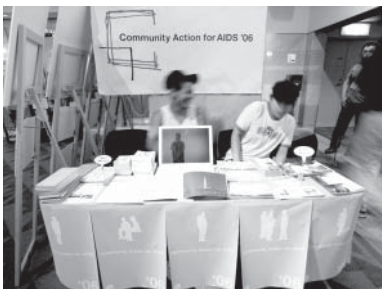
「映像の可能性にふれて」

生島 嗣

今年の映画祭のロビーでは昨年VOICE05のために制作したPERSONZのJILLさんのロングインタビュービデオ「living together」を上映しました。ロビーが配置変更をして上映会場になり、その場にいたスタッフや集まった方々に熱心に見ていただきました。

また、映画祭の上映の幕間に30秒の映像メッセージを上映しました。張由紀夫さん、kakejikuさん、りょうやさんの3人の方にご出演いただき、「自分の携帯のアドレスをみると、すごく沢山の人がHIVをもっていると気付く」、「女の子の場合には 膣の中を傷つけないようにするために、爪の手入れに気をつけています」とか、「元彼のHIVポジティブの人にふられたけども、今でもいい友達です」というような経験を短いなかで語っていただきました。

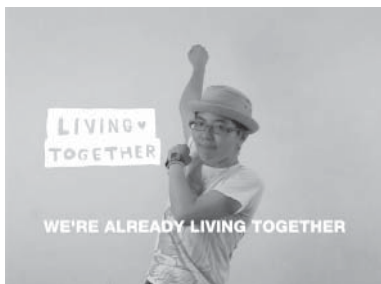
今年の上映作品で印象的だったのが、アメリカのファルコンというH系ビデオメーカーの制作の裏側をドキュメントした作品でした。個々の出演者の交流などが描かれるなかで、一人のポルノスターが自分はこのビデオに出演することで、HIV予防のメッセージを発信していきたいと語っていたのが印象的であった。



Community Action for AIDS '06のブース



「OUR DAYS」のパネル展示



Living Togetherのスポット映像：3人それぞれに“リビング トゥギャザー！”

東京レズビアン&ゲイパレード2006 関連イベント

8月12日、代々木公園を起点として東京レズビアン&ゲイパレードが行われました。今年はHIV/AIDSをテーマにしたCommunity Action for AIDS '06のフロート（山車と隊列）が初めて加わり、HIVに関わる多くの人が参加しました。当日ぶれいす東京Gay Friends for AIDSはブースを出展。翌日には「全国HIV陽性者交流会」（主催：TOKYO Pride／運営：日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、共催：ぶれいす東京ほか）が行われました。

■ Community Action for AIDS '06 フロート

Community Action for AIDS '06のフロートは、ぶれいす東京、Rainbow Ring、ジャンププラス、Occurなど、Community Actionに参加するグループのメンバーを中心に準備されました。



沿道にもこんな大勢のひとが…

「伝えるメッセージ、伝わるメッセージ」

松原 新（Community Action for AIDS '06 フロート企画・製作/Rainbow Ring）

14年前、自分のセクシュアリティを自己受容できないでいた当時19歳だった僕に大きなショックと勇気を与えてくれたLos Angelesのゲイパレード。メッセージボードに書かれた英語は当時の僕にはチンプンカンプンだったけれど、ゲイとして楽しそうにパレードを歩く人たちの姿は、僕にとって「ゲイとして、こんなふうに笑顔で生きていくことだって出来るんだよ」というメッセージでした。

今回、Community Action for AIDS '06のフロート（山車）のサイドにはデカデカとピンクの文字で「HIVを持っている人も、そうじゃない人も、ぼくらはもう、いっしょに生きている WE' RE ALREADY LIVING TOGETHER」というメッセージを掲げました。このメッセージって、どう捉えてもらってもOKだと思うのです。何かを感じたり考えたりしてもらえればいいんじゃないかな？

個人的にはフロートの前を険しい顔をしながら走っている姿で「こんなデブでもその気になれば走る事ができる！」というメッセージを伝えてみました。迷惑だったでしょうか？

「雨上がりの道を」

張 由紀夫（community center akta 勤務）

今回のフロートを作って、ものすごくうれしかったことは、フラッグにあんなにたくさんの東京のHIV/AIDSに関わるグループが名を連ねたことでした。そして、陽性者のみ



Community Action for AIDS '06のフロート

なさんと、そうでない人たちが文字通り「いっしょに」作ったフロートだったということが、もうなんていうんだろ、それこそ限りなくうれしかったです。

もちろん、それぞれがそれぞれの分野で「やるべきこと」をやってゆくことがもっとも大切なことだと思うのだけれど、でも手をつなぐときにはつなぐことが出来る、そういう礎みたいなものを作れたのかなと思うと、胸がいっぱいにな

りました。うれしい！

雨は降るわ雷は鳴るわ、他にもいろんなハードルがあとからあとから顔を出すので今年のパレードはホントに大変だったけれども、それだけに明治通りで隊列



明治通り×表参道：離ればなれだったフロートと隊列がついに合流！

とフロートがやっと合流できて、「雨上がりの道を、傘さして歩いた」って歌詞でAWAさんのライブが始まったときの胸の中でなにかが弾ける感じは忘れられません。

明日が見えなくて一人で過ごせないよ
もがくほど 心焦るけど
音もなく朝が来て
今日がまた始まる
君を守りたい！

時々こうやって何かが実を結ぶことは、なんて大きな勇気を人に与えるのだろうと思います。まだまだこれからもやっていけそうだよ！！なんて思ってしまった。かかわってくれた全てのすごい数の人たちに心から感謝の言葉を伝えたいと思っています。どうもありがとう！これからもよろしくです。

■ぶれいす東京のブースより

8月12日はあいにくの曇り空。時折のぞかせる太陽に期待をしつつ向かう代々木公園。着々と設営も進み、パレード参加のフロート登録が進んでいくなか、空の表情は次第に曇っていきます。まさか、今年も大丈夫だろうと皆が思っているところに、激しい雨と雷が。でもここで発揮カマパワー！Gの力です。ざけんじゃないわよ！って皆の心にビビったんですね。見事、パレードの時間にはスッキリ。降り終わった後の、ちょっとした肌寒さが心地よかったです。道路沿いから、店員のおじさん・ねえちゃんが気持ちいいくらい笑顔で「頑張って！」って踊りながら手を振ってくれたことに涙が出そうになりました。

今年はLTパネル展示やレインボーカラーの折り紙に、来場者に思い思いにコトバを書いてもらい、一つの大きな紙に貼ってできる参加型の展示や、あにーらドラッグクイーンのエキス&撮影会が付いてくる募金など、新しいとりくみもあり盛り上がったのではないのでしょうか？（ポリ子）

※東京レズビアン&ゲイパレード2006と関連イベントでは、(財)エイズ予防財団主催、ぶれいす東京企画・運営の「研究成果発表会」の枠組みにて、様々な発信が行われました。

■全国 HIV 陽性者交流会 今年も開催！

恒例となった「全国 HIV 陽性者交流会」が今年も行われました。主催がTOKYO Pride、ジャンププラスが運営し、ぶれいす東京／ネストやその他の陽性者団体が共催するかたちで行われたことや、パレードの翌日開催ということもあり、全国からの参加者があったことはこの交流会ならではの。

ある地方都市から来た陽性者が、この交流会で同じ地方から来ていた陽性者に会い、「〇〇にもポジがいたんだ！」と実感。安全に陽性者同士が出会う機会が地方ではまだまだ恵まれていないことを物語っていたエピソードでもありました。こういった交流会をきっかけにして、陽性者のネットワークが全国規模で育つといいですね。来年またお会いしましょう。(矢島)



パレードにはさまざまな分野からの参加者が
(左側の写真)左から、名古屋市立大学の市川誠一さん、東京都の大木幸子さん、飯田真美さん、厚生労働省の秋野公造さん
(右側の写真)左から、池上代表、東京都の飯田真美さん、厚生労働省の三好英文さん、ジャンププラスの長谷川博史さん

ネストより

ネストでは新しい取り組みが進んでいます。水曜日の昼間の憩いのひととき「カフェ・ネスト」、小グループで専門家を囲んでの勉強会「専門家と話そう」、女性陽性者の集まり「Women's Salon」。さまざまなニーズに対応しながら時代と共に進化するネストから、3題お届けします。

■カフェ・ネスト

毎週水曜日午後1時～4時にネストでオープンしているカフェ・ネストが5月10日にスタートして半年が経ちました。カフェ・ネスト・スタッフの二人から、ネスト利用者の皆さんへのご挨拶をお届けします。

「カフェ・ネストへようこそ」

石崎 眞子

こんにちは！
日頃ネストを利用されている方々が、ちょっといつもと違う時間と雰囲気でごせたらと想い、カフェ・ネスト・スタッフの八木さんと二人で毎週水曜日に皆さんをお迎えしています。



すっかり明るくなったネストとベランダのミニハーブガーデン

ここしばらくネストに行っていないなあという陽性者の方は是非いらしてみてください。へえ、変わったかもと気付いていただけはす！何がどう変わったのかは(ベランダが、とかあれが、とか)どうぞご自分で発見してみてくださいね。あっ自己紹介がまだでした。私はぶれいすのパティスタップでもある石崎眞子(しんこ)といいます。石ちゃんでもザキちゃんでも(眞子ちゃんはおこがましいかと)石崎さん以外で呼んでもらえたら嬉しいです。皆さんにとって少しでも居心地のいい空間であるように願い心からお待ちしております。

「カフェ・ネストにいらしゃいませんか」

八木

今年の春からスタートしたカフェ・ネストも、早いものでもうすぐ半年になります。実を言うと、今では、このカフェ・ネストに来ることが、私たちスタッフにとって、すごく楽しみになっています。毎回顔を見せて下さる方も増えてきました。皆さんに仲良くしていただいて、なんだか私たちのほう

が逆に和ませてもらっているようで申し訳ないのですが…。いつも来て下さる皆さん、本当にありがとうございます。

さて、ご存知の方も多いかと思いますが、そんなカフェ・ネストも、最初はとてもじゃないけど“カフェ”など言うのはおこがましい(?)正直言ってそんな雰囲気でした。なので、オープン当初は掃除三昧。そして少しずつ改造計画を立てては、コツコツと遂行して参りました。その一環で、ほとんど物置き状態だったベランダも、思い切ってちょっとしたコンテナガーデンに。まるで風化してしまったかのような木の椅子にペンキを塗ったら、なんと居心地の良い空間に早変わり。勢いに乗って、思わず部屋の大きなテーブルまで明るい色に塗り替えてしまいました。最近では部屋のカーテンも柔らかいクリーム色に新調し、これでやっと少しは“カフェ”らしくなったかなと、我々スタッフは勝手に自負しているのですが、いかがでしょうか。

ところで、ローズマリー、レモングラスとレモンバーム、そしてペパーミントにスペアミント。これ何だか分かりますか？じつは全部、ベランダで栽培されているハーブたちなんですよ。暑かった夏を乗り越えて、また元気に葉を茂らせてくれました。時々収穫して、突発的にフレッシュハーブティーの試飲会が開かれたりすることもあります。

毎週水曜日の午後、私たちスタッフが、忘れかけていた感覚を呼び覚ますような楽しいトラップを随所に仕掛けて、心から皆さんをお待ちしています。日溜まりの中で、季節感たっぷりの緑に囲まれていただくコーヒーはまた格別ですよ。みなさん、どうぞ、ぜひお立ち寄り下さい。

この時間帯にはどうしてもネストに来ることが出来ない！という方のためにも、ホンの少しでもカフェの雰囲気を味わって頂きたく、毎回ネストのあちらこちらにちょっとした「置き土産」をしのばせています。それは例えば、いろんなジャンルのCDだったり、さりげなく置かれたブーケだったり。そして何より、ベランダの緑がその時々表情で、やさしく皆さんを迎えてくれることでしょう。

■第2回 Women's Salon 「陽性告知を受けてからの出会いと結婚」

4月23日の午後、第2回 Women's Salonが開かれました。今回のゲストは、HIV 陽性告知を受けた女性と、告知後にめぐりあったお相手の方、本当に素敵な熟年のご夫婦でした。参加者の女性4名に池上代表と私に加わり、インタビュー役の生島の進行でお話をお聞きしました。お二人のお話を伺って、人生に希望がみえた一日でした。

参加された女性陽性者の方たちの感想文をご紹介します。
(はらだ)

すてきなご夫婦に「ぶれいす」で出会えた。HIVって不思議な病気だ。時に、人生の真実をはっきり見せてくれる、そんな病気じゃないかと思ったりする。Women's Salonは、初めての参加だったが、行ってよかったと思った。私たちのために来てくださったご夫婦が、伝えてくださったメッセージは、夫婦にとって大切なものは、相手への誠実さ、思いやり、そんな人としての原点だったような気がする。HIV感染の事実を知り、恋愛や結婚を遠ざける陽性者も少なくないかもしれない。けれども、そんな心のハードルを越えていくのは、自分の足でしっかり立って人生を歩くこと、相手に対してどこまでも誠実であること、そして、相手の心をどこまでも思いやること。ご主人に誠実であろうと、大切な友人を失う覚悟で感染を打ち明けられた奥様、そして、その心をまっすぐに受け止めていかれたご主人。そんなお二人の姿は自然体で気負いが無い。

HIVを越えて行くことは、本当の人生の宝を見つけることじゃないか。確信が持てた一日だった。本当にありがとうございました。(kyon)

出会いから結婚までお二人が様々な葛藤を乗り越えて一緒になられたお話を二時間にわたって伺った。HIVという秘密をどうやって好きな人に告知するのか、パートナーとして何ができるのか…いろいろ思うことはあったけれど、何よりもご夫婦がお互いに相手を思いやる気持ち、支え合うことの大切さを改めて感じた。HIVにかかったことで孤独と向き合い、ともすれば自分を閉じてしまうこともあるかもしれないけれど、それでも生きているからには愛したいし、愛されたいと思う。先は見えなくともあきらめずに自分のベストを尽くしたい。ひねくれて人生をネガティブに考えるなんてもったくないと思う。今回お二人を前に、なれるかどうかは別として、こんな素敵なカップルになれたらいいなあ、と思った。やっぱり、love、大切にしたい。貴重なお話をありがとうございました。(はな)

■第1回 専門家と話そう「歯科医と話そう」

7月26日に東京HIVデンタルネットワーク代表の鈴木治仁歯科医師を招き、9名が参加して行われました。参加者と鈴木さんからの感想文をお届けします。

「歯が痛いんですがどうすれば？」

ryu

告知を受けてもう3ヶ月が過ぎてしまった。最初は「俺の人生、もう終わりなのかな？」なんて、かなり悩んでいたりしていた。でも、病院の医師やぶれいす東京のスタッフの方々と、どんどん話していくうち非感染者の方々と変わらない日常を過ごせるんだと分かり…とても安心した！

ある受診日、主治医に「俺、歯悪いんですけど？どうしたらいいですかね？」と聞いたら、主治医の回答は「最寄の保健所に聞いて、教えてくれるから」。俺、「ハイ。聞いてみます！！」でその日の治療終了。

まあ保健所で紹介してもらって歯科医院に行ければいいん

だけどね…などとあまい考えだったのだが、現実には厳しいものだった。それで、7月26日ぶれいす東京主催の「歯科医と話そう」に参加してみました。

まず先生からのお話がありそれが…かなり熱い先生で、山下真二、村野武範の熱血先生ばり！話が横道にそれましたが。

結果、話の内容をまとめると、HIV患者に対する現状はかなり厳しい。HIV患者を治療する歯科医の数もきわめて少ない、保健所では紹介してはくれないのも分かりました。単純に考えて、歯科医の治療器具って都度滅菌しているわけだから、私達を治療しても他の人達には感染しないと思うんだけど…？

先生のお言葉で印象的だったものは、開業歯科医の多くが「自分の身を守りたい」「HIV患者を受け入れてると一般の患者が来院しなくなる」だそうです、だからなんだ！

でも先生は院内にも「HIV患者治療します」のポスターを張り、他にも受け入れてくれる治療院を増やそうと努力してくれています。今後、もっと増えてゆく感染者のためにも先生の惜しみない努力は歯科医師会や国を動かすものとなると信じてます。

俺は「プロジェクトX」創りたいくらい感謝しています。

「かかりつけの歯科医を見つけたいけど」 Tommy

歯が痛くて歯医者さんにみてもらう前にかかりつけの歯医者さんを見つけたいと思い、ACCの担当医に相談したのが半年も前のこと。しかし、実際に歯に痛みを感じない現在、あの歯科医院の独特なニオイと背筋が凍りつくドリルで歯を削る音からは、距離を置いてしまっているのが現実です。多分それ以上に自分自身がHIV感染者であることを説明することのワズラワシサー そのことを考えると「マー、いいや！今痛くないし、どうにかなるだろう！」と甘く考えています。結局、今度痛くなったらみてもらえばいいや！というのが正直な気持ちです。今回のセッションを拝聴させていただき、生涯にわたりアドバイスをいただける歯医者さんを見つけたいと考えていますが、いつのことになるやら？！

「ネストの学習会を終えて」

東京HIVデンタルネットワーク代表／
鈴木歯科クリニック 鈴木 治仁

ネスト学習会「歯科医と話そう」にてお話をさせていただきありがとうございました。

歯科医療では、診療拒否と歯科でのカミングアウトの問題があります。歯科医師、患者、お互いの相互理解と信頼関係に基づ



東京HIVデンタルネットワーク代表の
鈴木治仁歯科医師

いた歯科医療であるべきと考え、陽性者であろうが高血圧、心臓病などを抱える患者さんであろうが、健康な人であろうが、何ら変わりなく歯科医療がなされるべきである、と考えています。その点で今回の学習会では、ひざを交えてざっくばらんに歯科医療に関してお話できましたことは、有意義であったと思っています。

参加できなかった皆さんに、「かかりつけ歯科医を持ちましょう」と提言します。急に歯が痛くなったとき、理解ある歯科医を探すのは大変です。検診でも、歯石を取ってもらうのでも何でも良いですから、何でも無い時にでも歯科医院を訪れ、自分に合ったかかりつけ歯科医を探しておくことが重要です。またお会いしましょう。

「HIV陽性者のライフ・マネジメント」

PLWHAミーティング ～長期療養シリーズ～

ジャンププラスとぶれいす東京が共同で行っている「長期療養シリーズ」は今年で3回目となりました。HIV陽性者の長期療養をテーマにwebアンケートを実施、それにあわせてPLWHA（HIV陽性者）ミーティングが9月3日に東京都内で行われました。

8月にHIV陽性者向けwebアンケートが行われました。HIV陽性者が長期療養をする上で、将来どんな問題が起こると予測しているか、それをどのくらい心配しているか、それが起きたら対応できる自信があるかといったことを聞いています。副作用、生活習慣病、薬剤耐性といったことから、制度の変更による経済的負担の増加、周囲の人や職場で伝えることによって起きるデメリット、寿命が短くなること、セーフセックスが実行できなくなるということまで、幅広く様々な問題が取り上げられていました。

9月3日のPLWHAミーティングでは、砂川さんからアンケートの中間報告が行われました。興味深い結果が出つつあり、さらに詳しい結果を冊子（長期療養シリーズ「服薬と生活」「ストレスとつきあう」に続く第3弾）にまとめてフィードバックすることになっていますので、どうぞお楽しみに。また、このミーティングでは医師、看護師、ソーシャルワーカー、研究者といった、異なった立場のゲストが異なった視点を示し、今後、陽性者自身がどのようにセルフマネジメントしていくのかといったことを考える上での大きなヒントが見えてきたミーティングとなりました。（矢島）

◆参加者感想文

「日々アンテナを！」

びっくりドン子

今年8月に告知を受け、ぶれいす東京でこの講座のチラシをもらって参加しました。最初、講座名が「長期療養」となっていたので、1ヶ月にも満たない自分が参加しているのか迷いましたが、何事も勉強と思い前日に思いきって申込みました。

会場に入ると、「長期」だけあって、どっしり構えてらっしゃるような(?)オーラの方々ばかりで、自分が浮いているような感じがしましたが、内容は告知間もない自分にもすぐに役立つものばかりでした。

糖尿病の研究の先生の話から、「同じ慢性疾患同士、患者の悩みは同じだな」と思い、「インスリンを1日4回と食事制限に比べれば、1日1回の投薬と副作用は乗り越えられるかも」と少しほっとしました。

医療従事者3名の話では、特にACCの先生の話がよかったです。研究論文の繰り返しではなく、先生の本音もちらほら見え隠れしていたから。先生のざっくばらんな人柄もあるのでしょうか。主治医だったらなあなんて思ったりもしました。牛乳で胃の粘膜を作ってから薬を飲む話は実践してみたいです。

一つ気になったのは、患者の中で優等生タイプは投薬続行の途中で挫折しがちという話がありましたが、几帳面で優等生タイプ?の自分としては、腑に落ちませんでした。「真面目で何がいけないんだ〜！」と。

これからもマイペースに、いろいろな所に足を運び、自分のアンテナをはりめぐらせておきたいです。負担にならない程度にね。

「しびとく生きる」

加瀬 了一

私は、感染告知を受けてから15年近く、服薬開始から10年、今の薬の組合せを続けて9年になります。

ミーティング概要

第1部

- ・長期療養シリーズWeb調査結果中間報告
砂川 秀樹（実践女子大学非常勤講師・文化人類学者）
- ・慢性疾患とセルフケア
講師 浮ヶ谷 幸代（千葉大学・立教大学非常勤講師）
「病気だけど病気ではない」という同じ慢性疾患である糖尿病の生活に長期療養時代のHIVを探る。

第2部

- ・シンポジウム
「HIV陽性者のセルフケア／問題点と対処法」

《パネリスト》

- 藤平 輝明
（東京医科大学病院 医療福祉相談室 ソーシャルワーカー）
- 村上 未知子
（東京大学医科学研究所附属病院 コーディネーターナース）
- 照屋 勝治
（国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター（ACC）医師）

《司会》

- 長谷川 博史（ジャンププラス）
- 矢島 嵩（ぶれいす東京）

主催：ジャンププラス、ぶれいす東京

後援：鳥居薬品株式会社

これまで、「即効性のある知識や情報が得られる勉強会」にばかり出席していたので、このような「自己管理」「生活設計」というような、長期的に「自分と向き合うこと」がテーマの会に出席したのは始めてでしたが、多くのヒントが得られました。

まず、浮ヶ谷先生より、「慢性病患者が『病気を持った自分』と『病気でない自分』を使い分けるのは、『人間的なこと』であり『生活の術』である」という発言を伺い、「自分がいままで、半ば性格的或いは無意識的に行って来たこと（使い分け）は、そう的外れではなかった」ような感じがして、元気づけられたのでした。

「ドクター・ショッピング」（自分にあった医師を他と比較して選びとって行く行動／態度）等の話題に関しては、どんどんショッピングすればという浮ヶ谷先生と、医師である照屋先生（一生に会える医師は限られているので寧ろ今の医師を教育する位の気持ちで…とのご意見）との間で、立ち位置の違いも感じられ、個人的には浮ヶ谷先生のご意見により共感しましたが、一方で、私も自分の主治医など周囲の医師の方と良い関係を築いていく上で、「医師的なものの見方」を理解できれば、それは結果的には自分の利益になるし、患者と言う自分を「客観的に」見る助けにもなると感じました。

つまり、「違い」は「どちらが正しいか」という二者択一の問題ではなく、「立場や性格によって、それぞれの考えが違って当然。相手を理解し自分の生活をよりよくコントロールするために、違いを知ることが大切。」という「気づき」が得られたのです。

「医療者のものの見方」「気づき」という点では、看護師である村上先生より「医療者は問題解決型の教育を受けているが、ライフマネジメントの問題に関しては、まず患者さんの訴えを傾聴する姿勢がもっと必要」という発言が出たことに、自分の立場を客観的に捉える姿勢を感じ、好感を抱きました。

藤平先生の「制度は行動を縛るためだけでなく、それを利用してより良く生きるためにある」とのご発言にも多いに共感、砂川先生ご説明の調査結果に強く現れているように「将来的

な経済負担増加についての不安／予測」からは自分も自由ではありませんが、照屋先生のおっしゃった(原則的な「べき論」だけに拘らない)「応用力」を発揮して、これからも「しぶとく」「したたかに」やっていきたいと思った次第です。

当日講演して下さった方の一人と後日直接メールのやりとりをする機会があり、「結果が出ないと分かっているけど、とても有意義な会でした。」との感想を伺いましたが、私もまさに同感です。結果が出ないこと、人それぞれ違うことにこそ大きな意義が潜んでいると実感させられた勉強会でした。

ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会

今年の新人ボランティア合同研修会は、今年は9月10日(早稲田奉仕園)と9月18日、23日(豊島区生活産業プラザ)の2箇所です。多彩な講師陣と工夫をこらしたワークに30名を超える方が参加・修了しました。

「2006年度新人ボランティア合同研修報告」

すっかりふれいすの9月の恒例行事になりつつある、新人ボランティア募集とそれに伴う合同研修会を今年度も行いました。「合同」と聞くと、何の合同?と思う方もいらっしゃると思いますが、これはそれまで部門別に



グループに分かれての手記朗読

行っていた研修を各部門合同で行い、横のつながりも作ることも狙いつつ始めたものでもありました。そんな合同研修なのですが、気がつくともう今年で5年目を迎えてしまいました。ちなみに、最初の研修会に参加していたスタッフは、今ではすっかり各部門の主軸になり活動しています。

さて、今年は9月2日(土)にオリエンテーションを行い、30名を超える申し込みと参加者がありました。その後9月10日(日)、9月18日(祝・月)、9月23日(祝・土)の3日間、朝の10時から夕方5時までみっちり研修を受けていただきました。

毎年、ふれいすの研修には様々な年齢、セクシュアリティ、社会的な背景をもつ方が参加するので、研修の内容も参加する方を考慮しながら、他のスタッフとあーでもない、こーでもない、煮たり焼いたり揚げたり炒めたりして、できるだけ最善のプログラムを…と作っているのですが、参加者の皆さんにとって今年の研修はいかがだったでしょうか。

最終的に30名の参加者が無事に研修を修了し、各部門別の研修やミーティングにこれから参加していくことになりました。参加者の皆さんには、これからスタッフの一員として活躍していただけることを期待しつつ、活動中のスタッフの皆さんにもこれを新しい刺激として、すでにこれからも活動を続けていただけるとうれしく思います。まずは、それぞれの部門でどんなスタッフがいるのか、お互いによ〜く交流していただき、これからふれいす東京の活動をぜひ楽しみながら、支えていただければと思います。(文責 まきはら)

◆参加者感想文

「3日間の研修を終えて」

T.T

ふれいすのゆうれい会員であった私はもう少しふれいすに

	9月10日(日)	9月18日(月・祝)	9月23日(土・祝)
午前	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
	医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法/福原	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識/福原	ピア・サポートの取り組み/矢島
	休憩	休憩	休憩
	エゴグラム/野坂	セクシュアリティの多様性について/砂川	感染者の手記を読むワークショップ/生島・スタッフ
	昼食	昼食	昼食
午後	エゴグラムと交流分析/野坂	相手のある保健行動ー Condom使用と使用依頼①ワークショップ/生島・スタッフ	支援って何だろう?/生島・スタッフ
	休憩	休憩	休憩
	社会的な背景/池上	相手のある保健行動ー Condom使用と使用依頼②講義/池上	振り返りの時 今後の研修について
	休憩	休憩	
	プライバシーとは/生島・池上	HIV感染後の生活と社会サービス/牧原	
	振り返り	振り返り	

かかわりたいと思っていたら新聞でボランティアの研修の記事を見つけました。(ニューズレターより先に新聞で見つけた所に悲しいものがありますが)

初日からずしりと思ひ資料をいただきました。1時間の講義に3時間分位の資料があるように感じました。これをするのか、読むのか、覚えるのか。(それは無理。)についていけるか心配という声をいくつか聞きましたが、みんなしっかり参加していました。(別に聞いてるだけでいいんだし後でテストをするわけじゃないし居眠りしてたってだじょうぶじゃない?)居眠りするかと心配しましたが、多才な講師陣が次々に変わり、あぶない午後はワークショップで寝るひまあたえずと充実したきびしい3日間でした。毎日読みあげたグランドルールはとても大切でいい事だと思います。これからも大事にしてほしいです。まわりの人もやさしくしてくれて感謝です。3日間の研修をするのは支援する人にもされ

る人にもいい事だと思いました。これから少しでも前進できるようにわれらが新人をよろしくおねがいします。

『Peer』というつながり 横山 亮

ぶれいす東京のボランティア合同研修の一環で、「ピアサポートの取り組み」について、HIVポジティブの方の話を聴く機会があった。彼の体験から生まれた言葉を聴き、私を感じたことをここに残したいと思う。

「Peer」とは、同等・対等な立場の人・仲間などの意味がある。これを踏まえると、「ピアサポート」とは、対等な立場の人による支援と訳せる。HIVポジティブの人を支援し得るのは、同じ境遇にあるHIVポジティブの人であり、支援は当事者間で完結することになる。だが、彼の話の中に、誰であっても「Peer」の関係を築けると信じたくる言葉があった。

「自分の中にある弱い部分（痛み）が支援を可能にする」
自分の中にある弱さや痛みが、HIVポジティブの人への理解を可能にすると同時に、支援をしたいと考える人が当事者意識を持つ基盤にもなる。

今、私の中にある弱い部分が、人の痛みを理解し、「Peer」というつながりを築く、きっかけになりますように。

「ボランティア研修会に参加して」 安藤 靖絵

研修で一緒にいた方たちとお話していたのですが、この研修っていろいろな意味でお得！そんな感想です。

まずは、HIVの基礎知識をウイルスのことから教えてもらい、今まで漠然としてよく分からなかったのですが、身近に感じる事ができたのは収穫でした。

研修の最初にグラドルルールで、「それは違う」ではなく、お互いに「異なる意見があることを認めあう」ということが大事ということ、あらためて確認しました。ですから、ロールプレイでは、ひとそれぞれいろいろな考え方があるんだということも認識することができました。自分の考えが固まっていたことにも気付かされました。いろいろな意見があったけれども、実は、人にやさしいという価値観が共通していたのでは……あの居心地の良さはそのせいかしら、と思います。



グループで立案した支援計画を全体で発表

板橋区医師会主催 ピア・エデュケーター養成講座

地域の若者が、性感染症や性の健康について考える機会を提供する活動ができるように、板橋区医師会館にて研修会を開催。7月29日、30日の2日間、16名の若者が参加・修了しました。

(主催：社団法人板橋区医師会、共催：板橋区、研修協力：ぶれいす東京)

「9時からの研修に間に合わせるために、私、5時から起きて準備するんです～」という又ねえ(勝又里織)さんの総合司会で始まった養成講座。これは、資料の準備ではありません。化粧の準備です。「看護師、助産師の先輩」として完璧な装いで登場した又ねえ講師のもと、ぶれいす東京のスタッフは、これまでの研修会の積み重ねによる方法を駆使し、地域のピア・エデュケーター養成講座を実施しました。今回は、板橋区の



広報にも協力。素敵なポスターができました。

医師会が、地域でも若者の性の健康を促進したいという企画のお手伝い。当日は、主催者である地元医師たちや保健所長なども「列席」し、なにやら興味津々の様子。そんな中、スタッフの個性丸出しトーク、誘導尋問とも思える参加型ディスカッションなどが、ぞくぞくと展開し、参加者は、すっかり、リラックス。「偉い先生の講義が続くかと思っていましたが、楽しく参加できました～」という声のもと、無事終了。医師会のおじさまたちの満足顔が印象的でした。

(兵藤 智佳)

ピア・エデュケーター養成研修 ワークショップ・プログラム

7月29日 (土)	
13:00-14:00	オリエンテーション&アイスブレイキング (勝又)
14:15-16:00	HIV感染とリスクマネジメント (生島他)
16:00-16:30	一日の振り返り (兵藤他)
7月30日 (日)	
10:00-12:00	啓発手法とロールプレイ (勝又、生島他)
13:00-14:40	企画立案と発表会 (シーモア他)
15:00-16:30	HIV陽性者の手記朗読ワーク (牧原他)
16:30-17:00	全体の振り返り



リスクマネジメントのワークショップ

活動報告他

— 各部門より —

● ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

◆ホットライン・ミーティング他活動状況（）内は出席人数

- 7月 14日 東京都電話相談連絡会（3名）
16日 世話人会（7名）／スタッフミーティング（14名）
29日 臨時世話人会（6名）東京都エイズボランティア
講習会「自立支援法／検査について」（8名）
- 8月 6日 スタッフミーティング（13名）
学習会「危機的対応について」（12名）
11日 東京都電話相談連絡会（3名）
29日 平日フォローミーティング（2名）
- 9月 3日 臨時世話人会（3名）
8日 東京都電話相談連絡会（2名）
17日 世話人会（5名）／スタッフミーティング（16名）
第8回マニュアル作成プロジェクト（4名）

◆相談実績報告

— ぶれいす東京エイズ電話相談 —

	7月	8月	9月
日数(日)	5	4	4
総時間(時間)	20	16	16
相談員数(のべ)	6	5	4.5
相談件数(件)	30	30	34
うち(男性)	27	24	29
(女性)	3	6	5
(不明)	0	0	0
(陽性者)	0	0	0
1日平均(件)	6.0	7.5	8.5

— 東京都夜間・休日エイズ電話相談 — (委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	14	12	14
総時間(時間)	42	36	42
相談員数(のべ)	38	32	32.5
相談件数(件)	233	201	257
うち(男性)	189	174	205
(女性)	44	27	52
(不明)	0	0	0
(陽性者)	3	1	0
1日平均(件)	16.6	16.8	18.4

3月から増加していた相談件数ですが、7～8月は減少しました。件数的には低調でしたが、医療従事者からの相談が目立ちました。7月に4件、8月に3件、9月に2件とあり、今までも医療従事者からの相談は時々はありましたが、まとまってあったことが、HIV/AIDSの医療現場の現状を反映しているように感じます。中には、感染症報告のタイミングを尋ねられたものもあり、新しい時代に突入した感じを受けました。

(報告：佐藤)

● ぷ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

★ミーティング・その他活動（）内はぷ☆PEP参加人数

- ・ピア・プログラム
7/20 @恵比寿ビューティカレッジ（2名+中村、牧原）
準備ミーティング 7/11、7/14、7/19
- ・日本エイズ学会ユース部門ミーティング
全体 8/2（2名）、8/30（4名）、9/27（3名）
ピア部（※） 8/23（2名）、9/6（2名）、9/13（2名）
勉強会 9/27（4名）
- ・東京レズビアン&ゲイパレード2006 8/12
- ・ぶれいす東京研修
9/2（3名）、9/10、9/17、9/23（3名）
- ・定例ミーティング
7/22（4名）、8/3（8名）、9/28（5名）

★相談メール件数

7月：1件 8月：4件 9月：5件

★ピアプログラム報告

7月20日、恵比寿にある美容専門学校1、2年生140名、19～25歳の学生を対象として、約100分、途中休憩を入れて、STI、HIV/AIDS、妊娠などについてのO×クイズ、STI、HIV/AIDSの簡単な説明、手記リーディング、それを受けてのぷ☆PEPメンバーのトーク、ふり返り、という内容で実施しました。また今回は、スーパーバイザーとして中村美亜さんに来ていただくことになり、手記リーディングのファシリテートと、また医学的な用語の説明をする際、ぷ☆PEPメンバーの解説で不十分な場合に、フォローをしていただきました。

反省点として、やはり、事前準備がしっかりできていなかったことが挙げられると思います。段取りや用語解説文などがあやふやであったり、伝わりにくい文章だったりすると、集中力も切れ、また、誤解も生じやすいからです。

その反省点から、8月の定例ミーティングでは、ある程度プログラムのベースを作って置いたほうがいいのか、自分たちでプログラムを作成し、実際に体験しておいたほうがいいのか、という案ができました。今後の課題として考えていきたいと思っています。

(ぷ☆PEP活動報告、ピアプログラム報告：じっつー)

★エイズ学会ユース部門報告

11月30日から12月2日に、東京でエイズ学会が開催されます。このエイズ学会のユース部門に私たちぷ☆PEPのメンバーも参加しようということで、8月からユース部門の全体ミーティングおよび各グループのミーティングに本格的に加わっています。9月末まででは、主に、「学校におけるピアエデュケーション」について考えるグループ（ユース部門内、通称“ピア部”※）のミーティングが重ねられ、エイズ・ピアエデュケーションを行っている他団体のメンバーと積極的な意見交換を行っています。

“ピア部”としては、学会発表当日（12月1日）までに、「ピアエデュケーション活動を行っている（または、行おうとしている）

日本中の「ピア」たちと情報交換をし、ピアエデュケーションの計画から実施までの効率的で効果的なスキルやアイデアを紹介するハンドブックを作成しよう」と考えています。9月は、勉強会を企画したり、1次調査のためのアンケートを作成しました。10月以降は2次アンケートを作成し、提供してもらった情報をまとめて、文章化する作業に取りかかるつもりです。

(エイズ学会ユース部門報告：JUN)

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜 11:00～ 第3木曜 18:30～)

7/6	2人	7/20	5人
8/3	2人	8/14	4人
9/7	2人	9/21	4人

◆利用者数

7カ所の病院に通院中、もしくは入院中の24名の方へのべ34名のバディスタッフを派遣

◆活動内容 (2006年9月末現在)

派遣継続中	21件
在宅訪問	14件
病室訪問	3件
在宅の電話のみ	1件
派遣休止	3件

◆7月～9月の派遣調整

新規派遣 4件 派遣終了4件

◆バディ担当中のスタッフ構成 (9月末現在)

女性 16名 男性 9名

◆バディの現場から

9月の合同研修が修了し、これまで個別研修をされた方も含めて、バディでの活動を希望されている方が15名です。10月8日にバディワークショップを開催しますので、そこで修了後には活動に加わるバディがまた増える予定でもあります。今年度は、新規の派遣依頼、派遣調整が定期的に入っており、短期もありますが、継続の派遣も徐々に増えています。新たに登録するバディ、また現在待機になっているバディの皆さんの協力を得ながら、今後とも派遣を調整していきたいと思っております。皆様今後ともよろしくお願ひいたします。(報告：牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

◆ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)(*ファシリテーターなど)	
7月	26日	225名	(13名)	(16名)
8月	23日	166名	(11名)	(7名)
9月	25日	209名	(6名)	(15名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

◆カフェ・ネスト (実施日数、延べ利用者数)

7月(4日、19名) 8月(4日、24名) 9月(4日、29名)

◆ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者 PGM 第28期 (参加者6名) 7/1 7/15 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第29期 (参加6名) 7/18 8/1 8/22 9/5 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第30期 (参加6名) 9/2 9/23
- ・陰性パートナー・ミーティング 7/8 (2名) 9/9 (4名)
- ・ミドル・ミーティング 7/8 (8名) 9/9 (11名)

◆学習会/イベント

- ・7/10 ストレス・マネージメント講座3 (参加者8名)
- ・7/26 専門家と話そうシリーズ第1回 「歯科医と話そう」 (参加者9名)
ゲスト：鈴木治仁さん (東京 HIV デンタルネットワーク代表/鈴木歯科クリニック)
- ・9/3 PLWHA ミーティング 第3回 「HIV 陽性者のライフ・マネジメント」 (参加者20名)
講師：砂川秀樹さん (実践女子大学非常勤講師・文化人類学者)、浮ヶ谷幸代さん (千葉大学・立教大学非常勤講師)、照屋勝治さん (国立国際医療センター/エイズ治療・研究開発センター 医師)、藤平輝明さん (東京医科大学病院医療相談室 ソーシャルワーカー)、村上未知子さん (東京大学医科学研究所附属病院 看護師) (発表順) 詳しくは6ページ
- ・9/11 ストレス・マネージメント講座1 (参加者2名)
- ・8/13 全国HIV陽性者交流会 (ぶれいす東京協カイイベント) 詳しくは3ページ

◆ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフ)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング 7/25 (4、5) 9/12 (6、7)
- ・新陽性者 PGM 評価効果検討会 7/7 (6、6)
- ・web NEST 運営委員会 7/4 (2、2) 8/8 (2、2) 9/8 (2、2)
- ・ネスト世話人会 8/24 (1、3)

◆ネスト・ニュースレター

7/11 7月号発行、8/7 8月号発行、9/12 9月号発行

◆web NEST <http://web-nest.ptokyo.com/>

掲示板リニューアルスタート!

昨年10月にいったん休止した掲示板が、9/1から再スタートしました。直接ネストに来られない方のための場としても掲示板があったほうが良いということで、再開の準備を進めてきました。新掲示板の閲覧はどなたでもできますが、投稿できるのは登録をしたHIV陽性者とパートナー・家族の方のみです。メールアドレス(フリーメール可)とハンドルネームを登録して、パスワードを得ることで投稿できるシステムになりました。投稿までひと手間かかりますが、安心して情報交換や交流できる場になればと願っています。(報告：はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

◆Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 8件 (平均1.6件)
8月 8件 (平均2.0件)
9月 8件 (平均1.6件)

◆第15回東京国際レズビアン&ゲイ映画祭

7/8～9、7/13～17 於：スパイラルホール
ブース出展とビデオ上映をしました。(詳細は2ページにて)

◆東京レズビアン&ゲイパレード 2006 にて出展

8/12 於：代々木公園
(詳細は3ページにて)

◆第7回東京レインボー祭りにてブース出展 (8/13)

暑〜い新宿2丁目仲通りで今年も各種冊子配布を行いました。

一言：今年のパレード、同僚の先輩オバ様(ホンモンの女性)がわざわざ駆けつけてくれました。広場でいろんなコトを見て聞いて、自分の中で何かが変わったって言っていました。"Living Together"を実感してくれたのかなあ。(報告：タカシ)

HIV陽性者への相談サービス

◆相談実績 2006年7〜9月

2006年	7月	8月	9月
電話による相談	46	52	50
対面による相談	46	40	27
E-mailによる相談等	72	94	60
うち新規相談	14	16	13

※メール新規は含まず

◆7〜9月の新規相談者の属性 (N=43)

陽性者：32人(男性：30 女性：2)
判定保留告知：3人(男性：1 女性：2)
パートナー：4人(男性：3 女性：1)
家族：2人(男性：0 女性：2)
友人・知人：2人(男性：0 女性：2)

◆新規相談者の情報源 (N=43)

web：18、知人の陽性者：4、電話相談：4、看護師/コーディネーター：4、知人からの紹介：3、パンフレット：3、家族から：1、医師：1、ソーシャルワーカー：1、カウンセラー：1、検査所/保健所：1、福祉事務所：1、不明：1

◆7〜9月の新規相談内容

[検査と告知]

- ・血液検査の異常がきっかけで検査を受けたら陽性だった。
- ・性病の治療中に感染が判明。医師がパニックしていた。
- ・好きな人ができて検査にいったら陽性だった。
- ・妊婦検診で陽性反応がでた。予想外だったので混乱。

[周囲の人間関係]

- ・彼氏が感染していたが、自分はなぜか感染していなかった。
- ・同居のHIV陽性の兄弟の精神症状で困っている。
- ・同居している友達が陽性者なのだが、病院にいかない。
- ・母親から、息子のHIV陽性者についての相談。

[ネットワーク]

- ・陰性パートナーの会に参加したい。PGMに参加したい。
- ・血液製剤で感染した。結婚や今後のことを話したかった。
- ・2年前にカリニ肺炎で陽性と告知された女性、ネットワークを広げたい。
- ・病院にてネスト利用者と知り合いになった。webのチャットで知り合った。
- ・地方なので世間が狭く、他の陽性者と知り合うのが難しい。

[医療とコミュニケーション]

- ・5年前に陽性とわかったが、ここ3年くらい通院していない。

- ・薬物をつかっていたが、症状の進行と関連があるのか不安。
- ・告知時に産婦人科と内科の連携があまりなかった。

[セーフターセックス]

- ・知識はあったのだが、感染してしまった。後悔がある。
- ・セーフターを実践していたのに、生でセックスをしてしまった。ショック。
- ・女性パートナー。セックスが不安だけれども、相手にその気持ちが話せない。

[福祉や生活]

- ・未成年が親の保険を利用するのは大丈夫か。
- ・陽性とわかったのだが、勤務先に伝えた方がいいのか迷う。
- ・会社の社長に伝えたら、親会社の方から在宅勤務をといわれた。
- ・保険証がなく、体調不良を放置していたら発症してしまった。
- ・失業中に感染がわかり家族の生活を支えるのが大変。

(報告：牧原/福原/生島)

研究部門

厚生労働省 厚生労働科学研究

- ◆「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(2006年度から)

大阪府立大学の東優子さんが主任研究者となって今年度より開始された研究です。代表の池上千寿子と運営委員長の生島嗣が研究に参加しています。

(財)エイズ予防財団 研究成果発表会

- ◆「HIV陽性者と周囲の告知/被告知経験に関する研究―特にMSM層を対象として―」

昨年度まで3年間継続した、代表の池上を主任研究者とする厚生労働科学研究「HIV感染予防対策の効果に関する研究」の成果「HIV陽性者の存在自体が予防とケアをつないでいる」、及びそこから導きだされたメッセージ「Living Together - HIVを持っている人も、そうじゃない人も、ぼくらはもういっしょに生きている」について、特にゲイ男性を主なターゲットに、市民向けの発表会を行いました。

具体的にはまず、7月中旬の7日間にわたり表参道の東京ウィメンズプラザホール、スパイラルホールにて開催された、「第15回東京レズビアン&ゲイ映画祭」において、運営委員長の生島(分担研究者)がトークショー形式で研究成果を紹介したほか、ブース展示及び映画の合間のビデオCM上映などの様々な形により、発表を行いました。

その後、8月12日に代々木公園及びその周辺において開かれた、「東京レズビアン&ゲイパレード2006」において、「Living Together」のフロートが参加した他、ブース展示も行いました。また、翌8月13日に、新宿二丁目付近において行われた新宿レインボー祭りにおいても、同様のブース展示を行いました。

結果、7月には約6,000人以上、8月にも約3,000人以上の来場者に「Living Together」のメッセージを伝える機会を得て、来場者のアンケートにおいても多くの好評を戴きました(関連記事、p.2「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」、p.3「東京レズビアン&ゲイパレード2006関連イベント」)。

(報告：吉田)

「迫る!第20回日本エイズ学会学術集会」

<http://www.ptokyo.com/20gakkai/index.html>

前号でもお知らせした第20回日本エイズ学会学術集会がいよいよ迫ってきました。すごい、もりだくさんですね!!どのプログラムに参加しようか、今から計画をたてなくては…。

今回の学会は医師、歯科医師、看護師向けのHIV診療入門講座があったり、国内外のHIV陽性者が多数パネリストとして参加するなど、従来にない新しい取り組みがあります。今までエイズ学会が縁遠かった方も、この機会にぜひ参加してみてください。詳しくは、プログラム案内のフライヤー、または第20回日本エイズ学会学術集会ホームページ (URL: <http://www.ptokyo.com/20gakkai/index.html>) をご覧ください。

会期 2006年11月30日(木)～12月2日(土)
会場 日本教育会館
(東京都千代田区一ツ橋2-6-2 Tel.03-3230-2833)
学術総合センター
(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 Tel.03-4212-2000)

参加費は3日間で1万円(学生5千円)ですが、時間や財布がきつい、という方、参加証なしで入れる無料公開プログラムもあります。ぜひ来てみてください。日時と会場をお間違えないようにご注意ください。

参加登録費を必要としないプログラム

■サテライト・シンポジウム1

「地域における長期療養患者支援の課題～福祉現場からの提言～」

日時: 11月30日(木) 18:00-20:00
会場: 日本教育会館

[基調講演] 小西加保留(関西学院大学)

[シンポジウム]

臨床医の立場から: 内海 眞(高山厚生病院)、施設職員の立場から: 馬淵規嘉(サンビレッジ新生苑)、ケアマネジャーの立場から: 梨木京子(医療法人社団三記東鳳ハイネス)、医療ソーシャルワーカーの立場から: 葛田衣重(千葉大学付属病院)、司会: 山本博之(東京福祉大学)

■サテライト・シンポジウム2

「ゲイ男性の生育歴とHIV予防」

～5,731人のインターネット調査結果をひもといて～
研究者・スクールカウンセラー・HIVカウンセラーの立場から

日時: 12月1日(金) 18:00-20:00
会場: 日本教育会館

[シンポジウム]

日高庸晴(京都大学大学院医学研究科 客員研究員)、向笠章子(聖マリア病院 臨床心理士/福岡県スクールカウンセラー)、森田眞子(神奈川県保健福祉部健康増進課/HIV保健センター HIVカウンセラー)、市川誠一(名古屋市立大学看護学部)

■市民公開講座1

「あなたが、わたしが、Living Together」
～つながることからはじまるHIV/AIDSの予防～
学校や地域で有効な啓発手法と実践の紹介

日時: 12月2日(土) 13:00-15:30
場所: 学術総合センター

[プログラム]

「HIVが教えてくれたこと」北山翔子(「神様がくれたHIV」著者)、「HIV陽性者の声を届けるために」矢島嵩(HIV陽性者スピーカー派遣事業)、「関係性を創るために～リーディングという手法を含めて～」生島嗣(ぶれいす東京)、「新しい教材開発に向けて～CGを駆使したコンテンツ開発～」佐藤真康(株式会社ケーシーズ代表)、「エイズと私を語る～学校でのエイズ教育の課題～」安藤晴敏(神奈川県立津久井高等学校副校長)、「ピアが語る性～リアリティと当事者性～」遠見才希子(聖マリアンナ医科大学医学部2年生)、「学校のニーズとダイヤモンド～多様性とセクシュアリティを踏まえて～」岩室紳也(地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター)

■市民公開講座2

なぜ男性同性間でHIV感染は増えたか
～その対策は何をどうしてきたか、そしてこれからどうして行くか～

日時: 12月2日(土) 16:00-17:30
場所: 学術総合センター

[座長]

市川誠一(名古屋市立大学看護部)
長谷川博史(日本HIV陽性者ネットワーク JaNP+ 代表)

[演者]

鬼塚哲郎(京都産業大学/MASH大阪 代表)、山田創平(財団法人エイズ予防財団/MASH大阪)、佐藤未光(ひかりクリニック/Rainbow Ring 代表)、生島 嗣(ぶれいす東京)

■ 編集後記 ■

- ・ ボディソープを無印良品で買った容器に入れ替えて、お風呂のプチ模様替え! 何も書いてないのが、かえって良い感じで気に入ります。(こんどう)
- ・ このところ、いくつかの締め切りに追われてちょっとパニック気味でした。でもヤマは越えたかな(たぶん)。紅葉でも見に行つてプチ気分転換してこようっと。(やじま)
- ・ 冬に向けてではないのですが、皮下脂肪の蓄積がちゃくちゃくと進んでいる。これをなんとかせねば。まあ、それを考えるのは学会後ですね。(いくしま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304

TEL: 03-3361-8964 (月-金 12:00~19:00)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぶれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>

Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>